

名古屋国税局長賞

消費税の大切さ

関市立旭ヶ丘中学校

3年 柴田 陽菜

先日、テレビで参議院議員選挙の街頭演説が行われているのを見た。その中には“消費税を廃止する”と公約を掲げている政党の人がいた。それを見て、私は本当に消費税をなくした方がいいのだろうかと疑問を持った。

夏休み前に、私の学校では租税教室が開かれた。その時にもらった資料がとても印象に残っている。その資料は、令和6年度の日本の歳入総額を示す円グラフだ。特に目を引いたのは消費税の部分。23兆8230億円で、全体の21.2%を占めている。この資料を見て、消費税は日本を支えている大切な税の一つだと思った。

私は租税教室を通して、そんな大切な消費税が廃止されたらどうなるのか気になって調べてみることにした。そもそも消費税は、商品の販売やサービスの提供に対してかかる税金で、他の税とは異なり、世代や就労の状況に関わらず多くの人が負担する税だという。そんな消費税が廃止されることの一番のメリットは、やはり家計の負担軽減である。消費税がなくなると、その分商品が安くなって購入しやすくなるのだ。だが、デメリットもある。日本を支えてくれている消費税が失われてしまうと、その分財源が不足し、国の運営が困難になるかもしれない。また、消費税は教育や医療費、年金、介護などに役立てられている。例えば、教科書が無償でもらえたり、子供が病気になった時に無料で薬を処方してもらえることも税金のおかげだ。つまり、消費税がなくなると、今まで補償されてきた物事が補償されなくなってしまう可能性があるのだ。

消費税を廃止することで今よりもっと豊かな未来が待っていると考える人がいるかもしれない。しかし、その分リスクもあり、たった1つの決断で私たちの未来が大きく変わる可能性があると思うのだ。さまざまなリスクが考えられる中で、無理に廃止する必要はあるのだろうか。私はその必要はないと思う。

消費税、それは私たち中学生にとって一番身近な税金。そして日本を支えている大切な税金でもある。私は、ありがたいことに税金のおかげで学校や病院で十分な恩恵を受けている。そんな私ができることは何だろう…と考えてみた。その答えが消費税を支払うことだ。たった1回の買い物でもその税によって助けられる人たちがいるかもしれない。だから私は、日本や多くの人のために役立ててほしいという気持ちを込めて消費税を支払いたい。